

## バイオスタウン構想分析DB

【リンク】[十和田市バイオスタウン構想](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )
		公表回	公表年月日				
24	2008.3.31			青森県	十和田市	68359	689
構想の要約		野菜集出荷施設等から発生する野菜残さの飼料化や家畜排せつ物液肥化により十和田ブランドの農畜産物生産を行うとともに、製材工場残材等の熱エネルギー利用による新たな事業展開を進める。					
構想に盛り込まれた事業		①農作物の飼料化・堆肥化 ②家畜尿の液肥化                      ③家畜ふん尿のガスエネルギー利用 ④製材所の残材などの燃料化 ⑤林地残材の利用					
バイオマス利活用目標		添付別紙参照					
バイオスタウン構想概要図		添付別紙参照					

利用するバイオマス					
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス		資源作物	
家畜排せつ物	○	稲わら・もみがらなど	○	資源作物	
農業系廃棄物(廃菌床など)		野菜等非食部			
食品廃棄物	○	間伐材・林地残材	○		
廃食用油		果樹剪定枝	○		
水産加工残さ		竹材			
製材工場等残材	○	その他(                      )			
建設発生木材					
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草	○				
古紙・廃棄紙					
下水汚泥など	○				
その他(                      )					

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	○
飼料化	○	直接燃焼	○
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他(敷料等)	○	炭化	
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	
		バイオディーゼル燃料化	
		バイオエタノール化	○
		その他(                      )	

バイオスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事

実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

**バイオマス利活用目標**  
(バイオマスタウン構想書からコピー)

(1) 利活用目標

主に養豚事業者からの尿の液肥化、製材工場残材・端材の熱利用を図ることにより廃棄物系バイオマスの94%以上の活用を目指す。  
また、稲わらの堆肥化、林地残材の利活用を進めることにより未利用系バイオマスの40%以上の活用を目指す。

地域のバイオマス賦存量及び現在の利用状況

バイオマス		賦存量	変換・処理方法	仕向量	利用・販売	利用率
廃棄物系	食品産業汚泥	5,500	焼却処分	0	未利用	0%
	動植物性残渣 (野菜など)	5,783	堆肥化、飼料化	3,105	農地還元 家畜飼料	54%
	野菜残渣	1,295	堆肥化	16	農地還元	1%
	生ごみ (一般・事業系)	5,320	焼却処分	0	未利用	0%
	家畜排泄物	254,291	液肥化、堆肥化	241,664	農地還元	95%
	製材工場等残材	15,120	未処理	14,965	家畜用敷料 燃料用販売	98%
	下水汚泥	178,639		0	堆肥化	0%
	集落排水	2,370	堆肥化	1,222	堆肥化	51%
	小計					93%
未利用系	稲わら	27,055	飼料化 堆肥化	11,490 2,705	家畜飼料 農地還元	52%
	もみがら	4,950	未処理	3,118	家畜用敷料	63%
	林地残材	10,512	—	0	未利用	0%
	剪定枝・刈草	159		0	未利用	0%
	小計					38%
全体：炭素換算量						88%

## バイオマスタウン構想概要図

(バイオマスタウン構想書からコピー)

概要図なし

## 実現した事業(その1)

事業の名称	
事業者名	
事業所名	
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	
利用する変換技術	

事業の概要	添付別紙(パンフレット等)参照
	(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)